

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ  
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

腹腔鏡下肝切除における肝離断に関する研究

1. 対象となる患者さん

2016年1月1日～2022年12月31日の間に当院で腹腔鏡下肝切除術を施行された患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 土井 駿介

3. 研究の目的と意義

近年、肝切除の領域において、腹腔鏡下肝切除が徐々に普及しています。肝臓手術において、いかに出血を少なくするかが重要です。肝臓を切除する方法として、超音波凝固破碎装置(CUSA)を用いる方法と、鉗子で破碎していく方法(clamp crush法)が一般的です。これまで当科で行ったCUSAによる方法と鉗子で破碎する方法のどちらがより優れているかを明らかにすることが本研究の目的です。上記の臨床情報のうち、術中出血量を主要な評価項目とし、手術時間、開腹移行率、術後合併症、術後在院日数を副次の評価項目とします。

4. 研究の方法

研究の方法を簡潔に記載してください

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、腹腔鏡下肝切除におけるCUSAとclamp crush群の手術成績の差異について検討します。

5. 使用する情報

1 臨床所見(年齢, 性別, 疾患, 既往症, 腫瘍径, 腫瘍個数, 腫瘍部位, 手術術式, 出血量, 手術時間, Pringleの有無, Pringle時間, 肝離断時間, 開腹移行率, 開腹移行理由, 術

後在院日数, 術後合併症)

2 血液検査所見(術前肝機能検査:血清ビリルビン値, アルブミン 値, AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)値, ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)値, PT(プロトロンビン)%値, ICG(インドシアニングリン)15 分値.術後血液検査データ:血清ビリルビン値, アルブミン値, AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ) 値, ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)値, PT(プロトロンビン)%値, CRP(C 反応性蛋白)値, ICG(インドシアニングリン)15 分 値, BUN, CRE(クレアチニン), 推定 GFR 値]

## 6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

## 7. 研究期間

研究機関長の実施許可日~2026年12月31日

## 8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

## 9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 土井 駿介

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：raoyue8@naramed-u.ac.jp